

景況

レポート
2022年7～9月期調査

景気動向の概況

業況DIは前期比
1.8ポイントマイナス

今回のアンケート調査は、新型コロナウイルス感染症の第7波により感染者数が増加する一方で、感染拡大を予防する行動制限を緩和し、経済社会活動を平常に戻す流れの下で実施いたしました。

全業種の業況DIは前期比マイナス1.8ポイントの▲26.9で若干の低下に留まり、全体の業況判断としては、横ばいとなりました。来期については、製造業、非製造業、全体のすべてのDIが改善する見通しとなっています。しかしながら、ロシア・ウクライナ問題、原材料・資源価格の高騰、円安の進行等の下押し圧力は依然として強く、今後の景気動向については引き続き楽観視できない状態が続く事が予想されます。

調査要領

調査要領	依頼先数		回答数		回答率	
	合計	1542社	473社	30.7%		
	製造業	394社	146社	37.1%		
	建設業	325社	90社	27.7%		
	卸売業	201社	57社	28.4%		

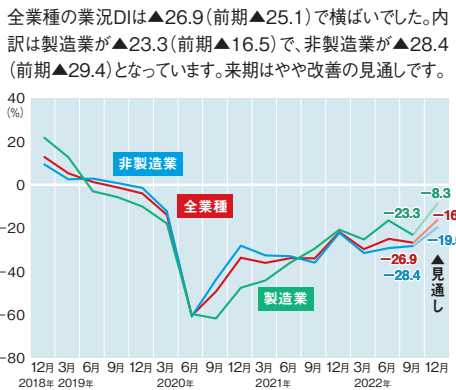
	依頼先数	回答数	回答率
小売業	161社	47社	29.2%
不動産業	116社	33社	28.4%
サービス業	345社	100社	29.0%

調査時点／2022年8月10日～8月31日
調査依頼先／当庫取引先
調査方法／郵送調査
調査対象期間／[今期]2022年7月～9月
[前期]2022年4月～6月
[来期]2022年10月～12月
分析方法／「増加」(上昇)したとする企業の占める構成比と、「減少」(下降)したとする企業の構成比との差(DI)により分析を行った。
※DI: Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス)

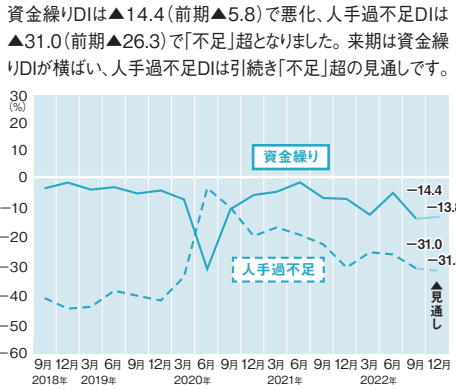
全業種総合DI

業況は横ばい、
来期はやや改善の見通し

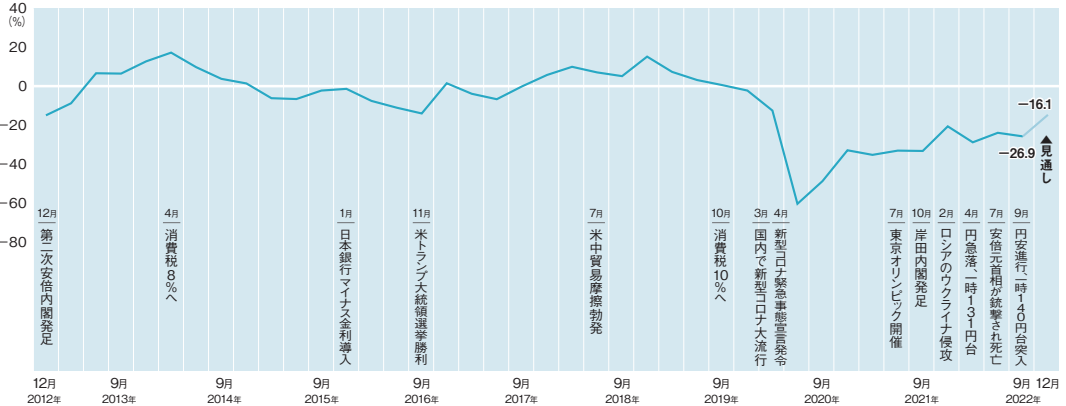
業況DIの推移



資金繰りDI：人手過不足DI



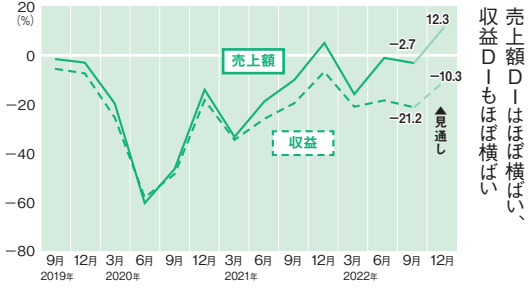
10年間の推移(業況DI)



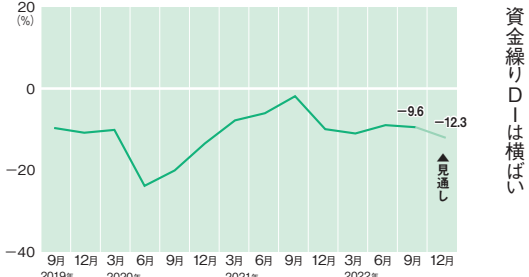
製造業

業況は悪化、
来期は大幅に改善の見通し

売上額・収益DI(前期比)



資金繰りDI



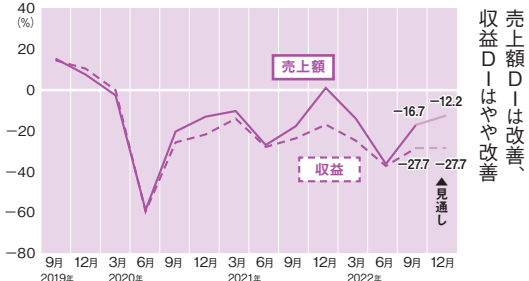
10年間の推移(業況DI)

前期 傘
今期 傘
見通し 傘

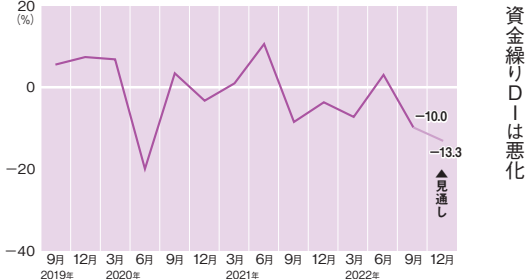
建設業

業況は横ばい、
来期はやや改善の見通し

売上額・収益DI(前期比)



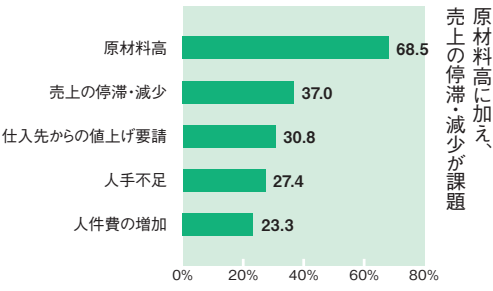
資金繰りDI



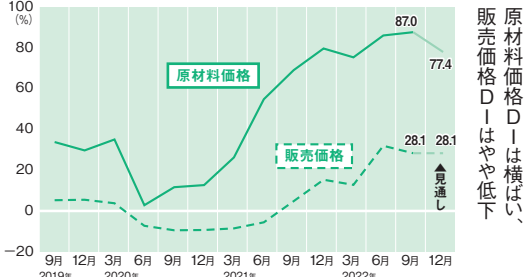
10年間の推移(業況DI)

前期 傘
今期 傘
見通し 傘

経営上の問題点



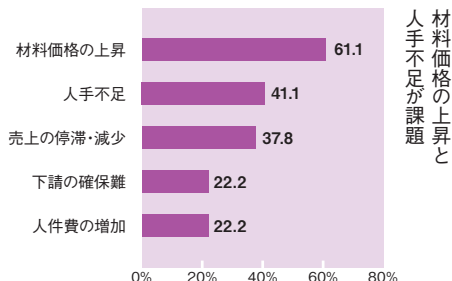
価格DI



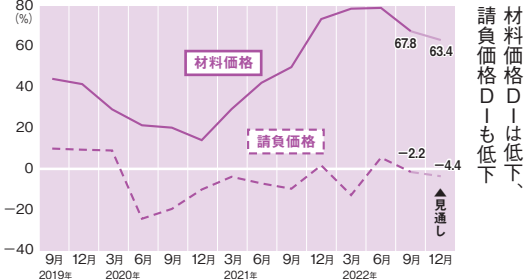
お客様の声

原材料の値上げがあり、商品に転嫁して一通り値上げをすることが出来ました。秋に原材料の再値上げが実施されないことを祈っています。(摂津市 製造業)
3、4月から昨年同時期と比較して売上が増加しています。(大阪市 印刷業)

経営上の問題点



価格DI



お客様の声

SDGsの恩恵を受けるきっかけが欲しいです。(尼崎市 建設業)



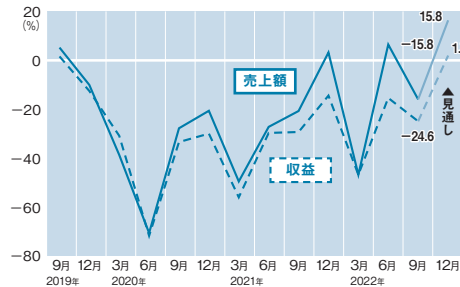
卸売業

業況は悪化、
来期は改善の
見通し

前期 
今期 
見通し 

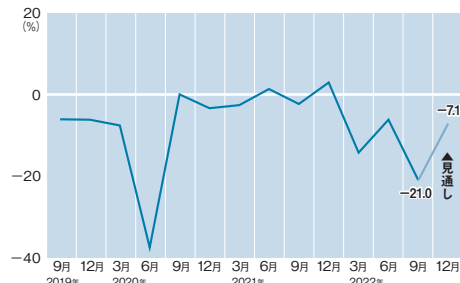
売上額・収益D-I（前期比）

売上額D-Iは大幅に悪化、
収益D-Iは悪化



資金繰りD-I

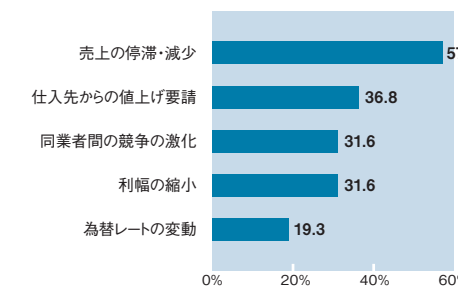
資金繰りD-Iは悪化



10年間の推移（業況D-I）

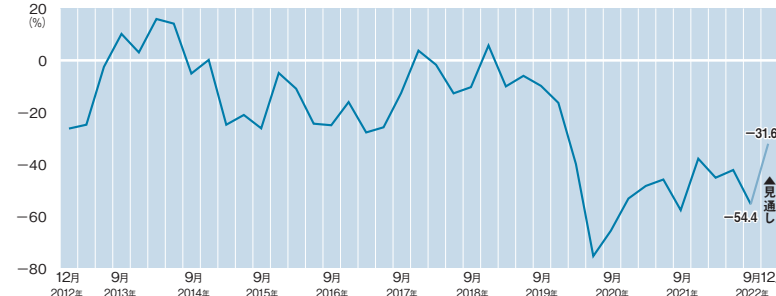
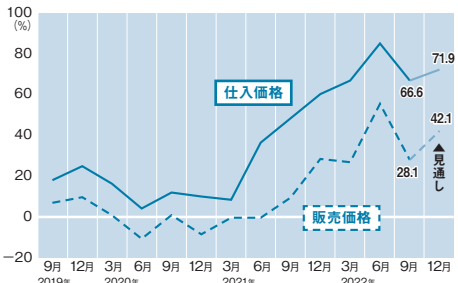
経営上の問題点

売上の停滞・減少が課題



価格D-I

仕入価格D-Iは大幅に低下、
販売価格D-Iも大幅に低下



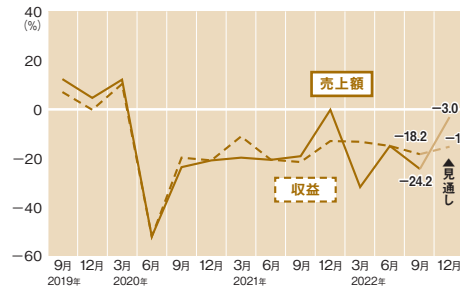
不動産業

業況は大幅に悪化、
来期はやや改善の
見通し

前期 
今期 
見通し 

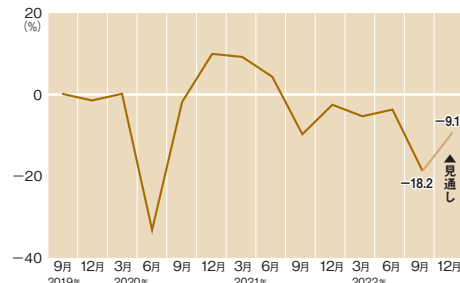
売上額・収益D-I（前期比）

売上額D-Iは悪化、
収益D-Iも悪化



資金繰りD-I

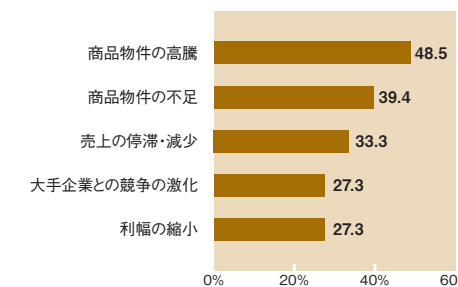
資金繰りD-Iは悪化



10年間の推移（業況D-I）

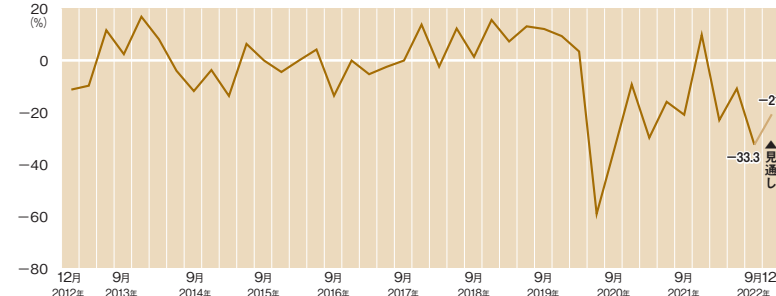
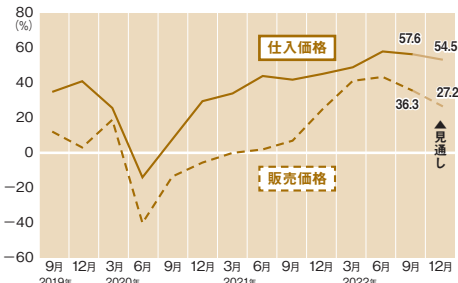
経営上の問題点

商品物件の
高騰・不足が課題



価格D-I

仕入価格D-Iは横ばい、
販売価格D-Iはやや低下



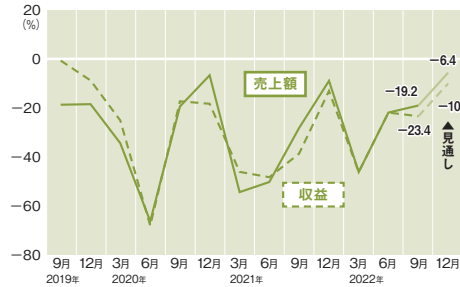
小売業

業況はやや改善、
来期もやや改善の
見通し

前期 
今期 
見通し 

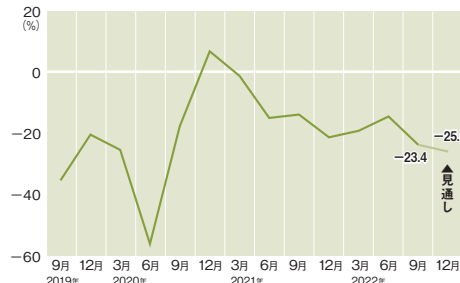
売上額・収益D-I（前期比）

売上額D-Iはほぼ横ばい、
収益D-Iは横ばい



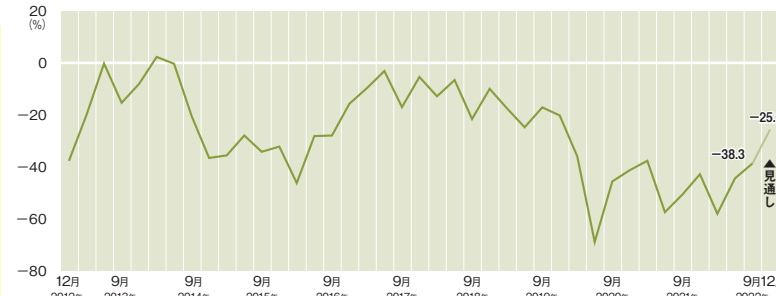
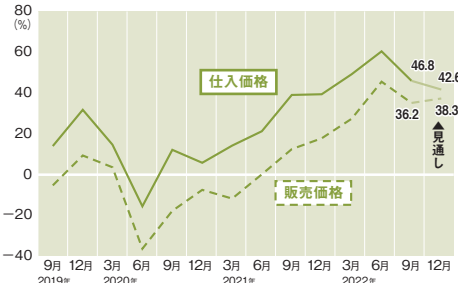
資金繰りD-I

資金繰りD-Iは悪化



価格D-I

仕入価格D-Iは低下、
販売価格D-Iも低下



お客様の声

SDGsについては従来から取り組んでおりますので、今以上のことは特に考えていません。（大阪市 小売業）
コロナ第7波は観光業を直撃しており、復活に向けて対応策を実行している段階。自社を整えSDGsなど社会的活動まで進める予定。（宝塚市 食料品小売業）



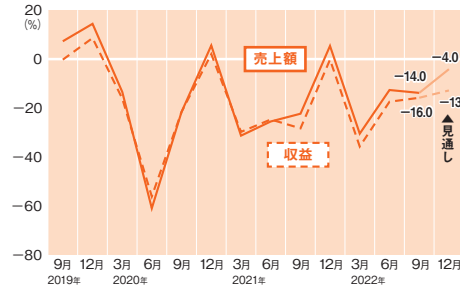
サービス業

業況は改善、
来期はやや改善の
見通し

前期 
今期 
見通し 

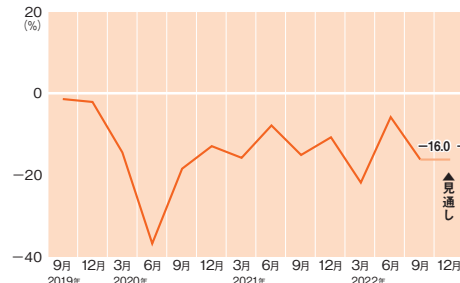
売上額・収益D-I（前期比）

売上額D-Iは横ばい、
収益D-Iも横ばい



資金繰りD-I

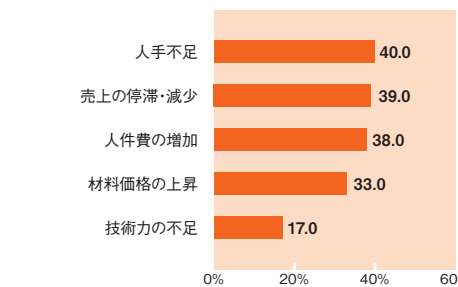
資金繰りD-Iは悪化



10年間の推移（業況D-I）

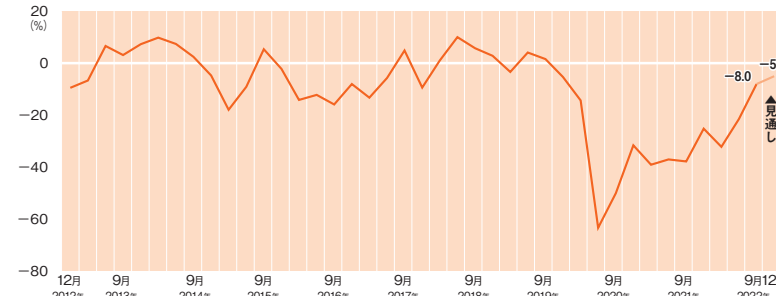
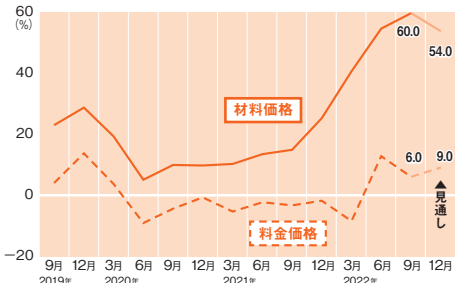
経営上の問題点

売上の停滞・人手不足が課題



価格D-I

材料価格D-Iはやや上昇、
料金価格D-Iはやや低下



お客様の声

早くコロナ感染が収まってお客様を増やしたい。コロナ感染及び濃厚接触者が発生するとたちまち人手不足が深刻となります。ハローワークで募集しても応募者が存在せず、人材紹介会社に依頼すると費用がかさむ。（池田市 その他サービス業）

特別調査 2

今期の見通し、外部環境の変化に対する対応状況について

新型コロナウイルス蔓延、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化、原材料・仕入価格の高騰、電力不足、円安等、様々な外部環境の影響が中小企業の経営を圧迫しており、当面この状況が続くものと思われます。今回、中小企業の皆さまの抱えている課題とその対策や、今後の見通し等についてアンケートを実施いたしました。

調査時期／2022年8月10日～8月31日 調査対象企業数／1542社 有効回答数／461社 有効回答率／29.9% ※四捨五入の関係で構成比の合計が100にならない場合があります。

特別調査 1

「中小企業」におけるSDGs(持続可能な開発目標)の取り組み状況について

SDGsとは2015年9月国連で採択された「持続可能な開発目標」です。「誰一人取り残さない」という理念のもと、「世界の貧困をなくす」「持続可能な世界を実現する」ことを目指した、2030年を達成期限とする17のゴール、169のターゲット、および、その進展を評価するための指針を持つ包括的な目標です。今回はSDGs(持続可能な開発目標)の取り組み状況についてアンケートを実施いたしました。

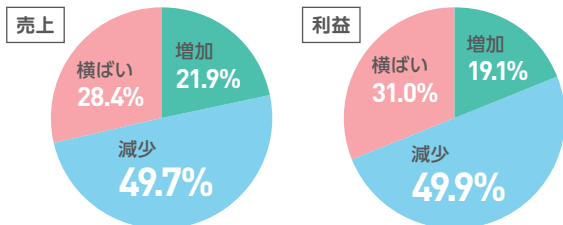
調査時期／2022年8月10日～8月31日 調査対象企業数／1542社 有効回答数／465社 有効回答率／30.2% ※四捨五入の関係で構成比の合計が100にならない場合があります。

Q1

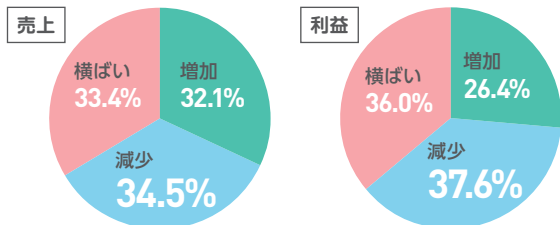
今期決算予想を、〈売上〉〈利益〉の項目からお答えください。

※1つ選択

＜コロナ前(2019年)と比較＞

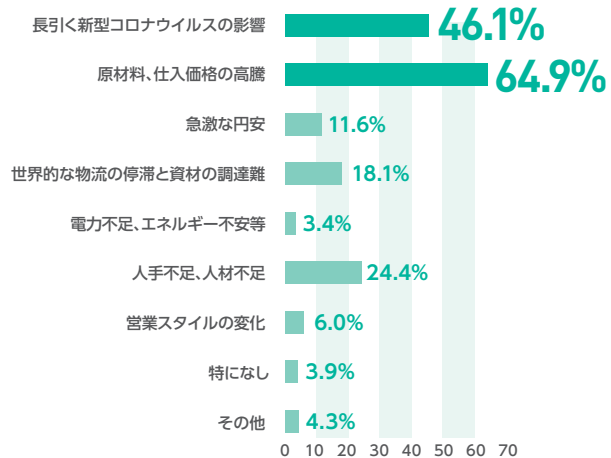


＜前期(2021年)と比較＞



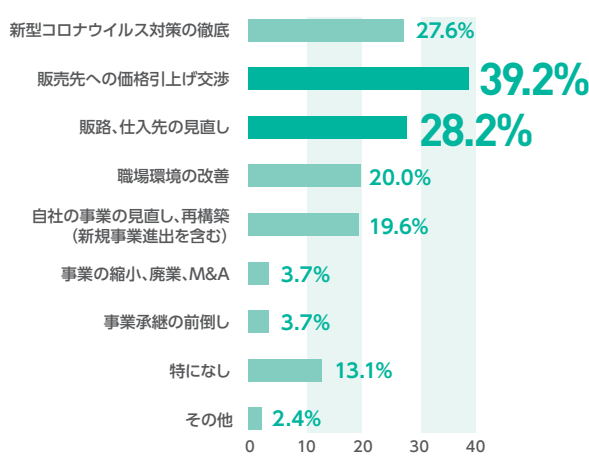
Q2

どのような外的要因が自社の経営を悪化させる要因となっていますか。 ※最大2つ選択



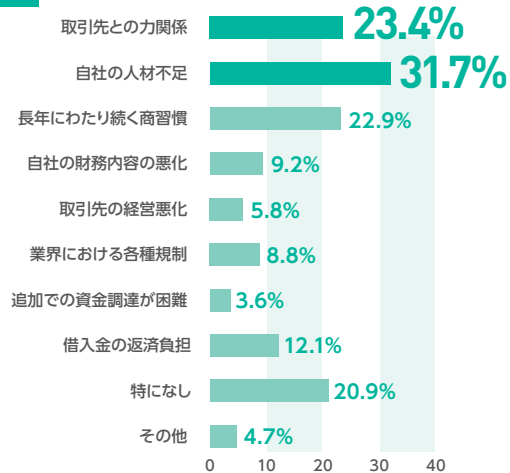
Q3

現在の先行き不透明な環境の中でどのような対策を行っていますか。 ※最大2つ選択



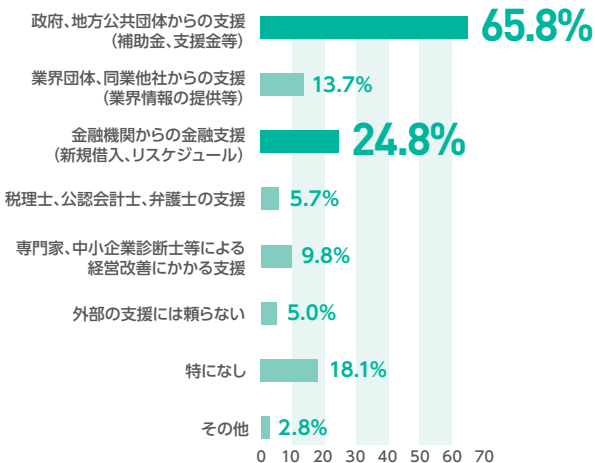
Q4

経営改善策に対する阻害要因は何ですか。 ※最大2つ選択



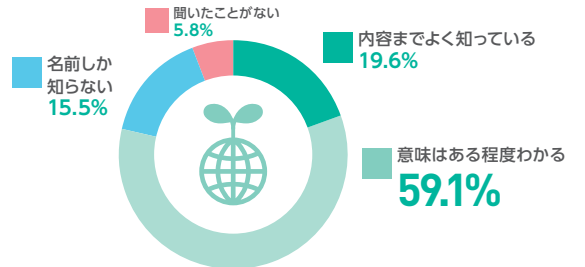
Q5

混迷を続ける経済社会情勢下で、どのような支援を期待しますか。 ※最大2つ選択

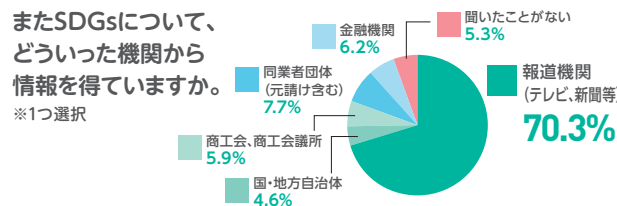


Q1

貴社では、SDGsについてどのような認知度にありますか。 ※1つ選択

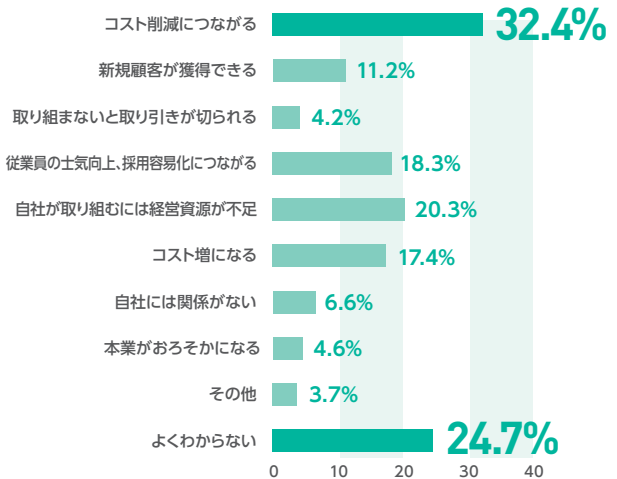


またSDGsについて、
どういった機関から
情報を得ていますか。
※1つ選択



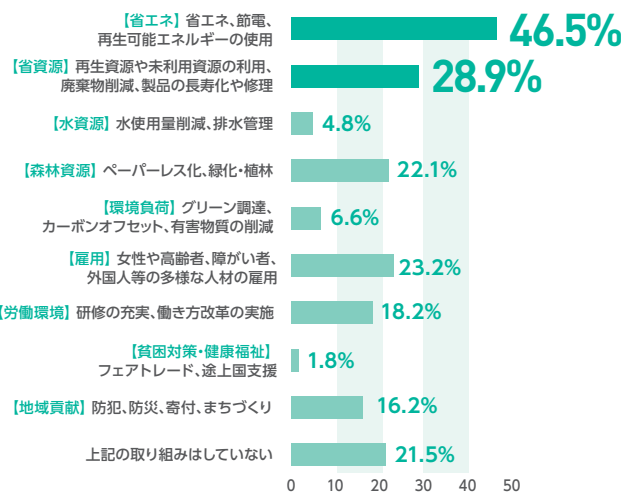
Q3

企業がSDGsに取り組むことについてどのような印象を持っていますか。 ※最大3つ選択



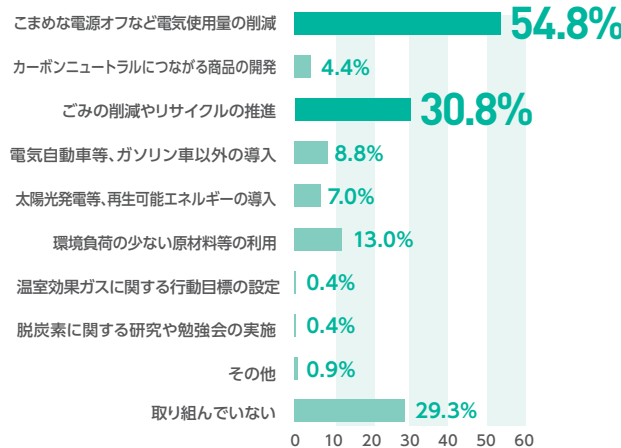
Q2

下記の取り組みは、いずれもSDGsの理念と一致しています。取り組んでいるものをお答えください。 ※最大3つ選択



Q4

SDGsの取り組みの一つとして、カーボンニュートラル(温室効果ガスの排出量の削減ならびに吸収作用の保全及び強化)に関する取り組みがありますが、取り組まれている対策はありますか。 ※最大3つ選択



Q5

SDGsについて、外部要因(公的、民間問わず)からどのようなサポートを期待しますか。 ※最大3つ選択

